# スマートフォンのバリュー・チェーンの先行研究の一考察

# A Study in Previous Studies of Smartphone's Value Chain

程　培佳（同志社大学商学研究科）
Cheng　Peijia（Graduate School of Commerce）

報告要旨

2002 年に発売されたノキアの 9200 シリーズは最初のスマートフォンであると言われている。しかし、当時スマートフォンの応用はビジネスに限られている。2007 年、iPhone の発売により、スマートフォンブームを巻き起こした。

本研究では、バリュー・チェーンの概念のもとで、2002 年からスマートフォンを対象にした先行研究を考察する。これまでスマートフォンのバリュー・チェーンの先行研究の特徴・変遷を明らかにする。そのうえで、今後のスマートフォンのバリュー・チェーンの分析の課題および注意点を提示する。

初期のスマートフォンのバリュー・チェーンの先行研究では、産業レベルにおける分析が大半である。その分析によって、スマートフォンにおける各国の黒字・赤字を明らかにされた。しかし、このような分析は、ハードウェアを前提にし、ソフトウェアを無視・軽視したことが多い。そのような結果になった原因の 1 つは、フィーチャーフォンが長い期間で携帯電話市場を支配してきたことである。スマートフォンが普及し始めたのは、iPhone が発売された 2007 年からと考えられる。優れたタッチパネルおよび OS（システム）による簡易の操作で、スマートフォンの普及をさらに推進した。ソフトウェア（OS）の成功は、スマートフォンのバリュー・チェーンに議論しなければならないことである。また、ソフトウェア（OS）の差別化はスマートフォンの差別化に最も有効な手段と考えられている。2007 年以後、スマートフォンのバリュー・チェーン分析には、ソフトウェア（OS）を意識されるようになり、プラットフォームに関する議論が加わった。

2011 年から、スマートフォンのバリュー・チェーン分析では、通信業者をバリュー・チェーンの一環として議論されるようになった。代表的な論文は、Dedrick et al(2011)が書いた論文である。彼は、アメリカの通信業者である AT&T をソフトウェアやハードウェア似とどまったスマートフォンのバリュー・チェーン分析を発展させた。

しかし、ソフトウェアである急激に成長しているアプリケーションに関する分析や議論は多く行われていない。今後、スマートフォンのバリュー・チェーン分析にアプリケーションを無視しないことは注意点の 1 つである。また、ソフトウェアに関する知的財産権がスマートフォンのバリュー・チェーンにどのように影響するのかを明らかにすることは今後の課題である。